

Narita Airport News

NAN

2021年11月1日号 No.358

成田空港の運用状況 (2021年9月)

区 分	7月	8月	9月			
			前年同月比(%)	前年同月比(%)	前々年同月比(%)	
航空機発着回数(回)	11,175	11,691	124	11,076	130	50
国際線	8,351	8,001	131	8,451	127	48
旅客便	4,232	4,173	170	4,224	172	28
貨物便	3,905	3,624	117	4,063	110	194
その他	214	204	37	164	32	56
国内線	2,824	3,690	111	2,625	140	56
旅客便	2,787	3,638	112	2,587	142	57
貨物便	0	0	0	0	0	0
その他	37	52	63	38	70	29
航空旅客数(人)	505,190	658,443	173	470,143	150	13
国際線	186,615	216,953	192	164,502	159	5
日本人	40,697	50,785	169	40,627	148	3
外国人	72,906	71,978	189	55,067	133	4
通過客	73,012	94,190	211	68,808	200	24
国内線	318,575	441,490	165	305,641	145	46
国際航空貨物量(t)	222,135	212,260	142	218,605	134	125
積込	103,777	100,464	152	102,666	140	127
輸出	71,139	68,870	158	73,730	146	150
仮陸揚	32,638	31,594	139	28,936	125	92
取卸	118,358	111,796	134	115,939	130	123
輸入	83,180	78,823	136	84,828	135	129
仮陸揚	35,178	32,973	129	31,111	119	109
給油量(kl)	196,264	197,605	137	197,909	130	53

(注) 1. 8月、9月は速報値。

2. 国際航空貨物量は東京税関の資料による。

羽田空港の運用状況

区 分	7月	8月	9月	
			前年同月比(%)	前々年同月比(%)
国際線(人)	79,986	88,231	248	5
日本人	40,301	47,548	201	5
外国人	39,685	40,683	341	6
国際航空貨物量(t)	34,936	33,114	168	74
積込	17,564	16,657	169	87
取卸	17,372	16,457	168	64

(注) 1. 国際線旅客数は法務省、国際航空貨物量は東京税関の資料による。

航空機発着回数

前年同月比+30% (2,557回増、前々年同月比▲50%)となりました。

国際線発着回数は、生活需要の増加等により前年と比較して改善傾向にあり、前年同月比+27%の8,451回、国内線発着回数は、夏季需要におけるLCC各社の増便等があり、9月に入り落ち込んだものの、前年同月比+40%の2,625回となりました。国際線貨物便は、前年同月比+10%の4,063回で、国際線貨物臨時便が多数運航されたことにより好調を維持し、9月として過去最高を記録しました。

航空旅客数

前年同月比+50% (156,540人増、前々年同月比▲87%)となりました。

国際線旅客数は、前年同月比+59%の164,502人となりました。国内線旅客数は、前年同月比+45%の305,641人となりました。

国際航空貨物量

前年同月比+34% (55,978トン増、前々年同月比+25%)となり、9月として過去最高を記録しました。

国際航空の回復のための閣僚宣言に合意 ～ COVID-19に関するICAO ハイレベル会合～

10月12日～22日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する国際民間航空機関（ICAO）ハイレベル会合が開催され、日本の代表団が参加し、COVID-19からの航空の安全かつ効率的な回復の推進を目的とした閣僚宣言が採択されました。

ICAOは、COVID-19の世界的な感染拡大により国際航空の分野が多大な影響を受けている中、世界保健機関（WHO）等の関係機関と連携して、COVID-19対策に関する様々な提言やガイダンス、マニュアルの策定など、国際航空の回復に向け、各種課題に取り組んできました。今回、これらの取組を踏まえ、パンデミックからの航空の回復を安全かつ効率的に推進させるための様々な課題を共有し、推進させる旨の閣僚宣言を全会一致で採択したものです。

「世界的パンデミック後を見据えた航空の回復、回復力及び持続可能性のためのワン・ビジョン」（仮訳）とした閣僚宣言では、「我々は航空分野が COVID-19パンデミックから可能な限り早期に再建するよう、ともに団結することを約束する」などの14項目を宣言しています。

ANAとJAL SAFに関する共同レポート策定

ANA(NH)とJAL(JL)は10月8日、2050年カーボンニュートラルに向け、持続可能な航空燃料（Sustainable Aviation Fuel、以下「SAF」）の活用促進に関する市場調査を行い、考察をまとめた共同レポートを策定し発表しました。

同レポートでは、2050年航空輸送におけるCO2排出実質ゼロを実現させるには、現在、世界のSAF生

産量は需要の0.03%未満に留まっており、量産と普及が急務であるとし、航空輸送に関わる産業が横断的に協力してSAFの技術開発、生産および利用を加速させ、2030年には最低でも使用燃料の10%をSAFへ置き換える必要があるとしています。

また、航空輸送事業の成長率予測をもとに、2050年におけるCO2排出削減手法としてSAFを積極活用した場合に本邦航空会社の国内線と国際線、および日本に就航する外国航空会社が日本の各空港で給油するために必要なSAFの量を算出したところ、2050年にCO2排出量実質ゼロを実現するためには日本で最大約2,300万KLのSAFが必要としています。

スカイライナー 運転再開

京成電鉄(株)は、一部運休していたすべてのスカイライナーの運転を10月30日から再開しました。

スカイライナーは、新型コロナウイルス感染症拡大による社会情勢や乗車率の低下に伴い、2020年5月1日から、上下線合わせて36便のスカイライナーを運休しておりましたが、新型コロナウイルス新規感染者の減少やワクチン接種の進展、政府による行動制限緩和の検討、航空各社の冬ダイヤの増便計画等を踏まえ、運転が再開されたものです。

これによりスカイライナーは、1日あたり上下線合計82本、終日20分間隔での運行されることとなります（※一部異なる時間帯もあり）。

なお、現在、スカイライナーの一部列車で実施されている青砥駅への臨時停車と平日朝の通勤時間帯に合わせて印旛日本医大駅～京成上野駅間で運行している「臨時ライナー」については、当面の間継続されます。なお、運転再開後の時刻表等については同社HPでご確認ください。

<https://www.keisei.co.jp/keisei/tetudou/accessj/index.php>

尾翼

猛威を振るったデルタ株の第五波はどうか収束し、落ち着いた状況が続いております。当協会が空港会社から運営を任されている空港内保育所「たんぼぼ」は、園児・保育者の皆様、スタッフ・関係者のご尽力で、どうかこの恐ろしい波を乗り越えることができました。運営にあたっては指針に基づいた感染防止策の徹底と啓蒙を地道に積み重ね、まずは園児とスタッフの安全を第一とし、加えてクラスターを発生させないこと、保育の継続により空港従業員への影響を最小限に抑えて空港運営に支障をきたさないことを目標に対処してまいりました。ハード面でも空港会社のご尽力で換気対応設備を設置するなど日々進化させております。幸い今日まで支障がないことを皆様に感謝しつつ、今後も引き続き万全を期してまいります。

十月十五日には、一か月延期した運動会を滞りなく実施することができました。演目を工夫し、感染防止係を配置し、園児の所作一つひとつに気を配って少しでも安全性を向上するよう努力いたしました。園児と大人の分離の観点から、観覧に関しては年長児の関係者のみに限らせていただき、多くの保護者様に残念な思いをさせてしまったことは悔やまれますが、今後のさまざまな行事や日常においてこの経験を活かし、コロナ時代の保育のあり方を真剣に考え、工夫してまいります。

このように当協会が全力で取り組む「たんぼぼ」は園児を募集しております。コロナ禍で厳しい状況に置かれた空港従業員の皆さまに寄り添った運営を心掛けておりますので、よろしくお願いたします。

(H・M)